

小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会【結果】

日時：令和6年11月8日（金）

午後7時2分～8時2分

場所：音江公民館 講堂

■参加者 21名

（保護者7・学校運営協議会委員5・市議会委員3・校長及び教頭3・その他3）

教育委員会：三浦教育長・宮田教育委員・轡田教育委員・伊藤教育部長・佐藤学務課長・
星野学務補佐・山崎管理係長・徳武事務補

市長出席

■司会進行 伊藤教育部長

1. 教育長挨拶

2. 資料説明（山崎管理係長）

- ・資料1～小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会
- ・資料2～小学校別学級数及び児童数推計
- ・別添1～深川市学校配置基本方針
- ・別添2～深川市学校配置基本方針に基づく小学校に係る対応について

3. 意見交換

※以下の記録は要点を整理した概要であるとともに、個人に関する内容や単純に資料を確認する発言などは省略しています。

○保護者～現在、音江小学校には複式学級がありますが、複式学級の先生は忙しいし、子ども達も体育や音楽など学年が違うことで難しいことが多いと感じているため、他校と合併して同じ学年の子ども達と一緒に学んで欲しいと考えています。

統合することでのデメリットは少なく、メリットの方が多いと感じています。

子どもが低学年の時には、学校から学童の施設まで距離があり心配でしたが、深川小学校であれば学校内に学童があるため安心できます。他にも安心できる点が増えると感じています。

現在、音江小学校にはバス通学をしている児童もいるため、スクールバスになっても変化は少ないと思います。

音江小学校のPTAは数が少ないため一人ひとりへの負担も大きいですが、深川小学校であれば数が多いため、負担は軽減されると思っています。

○保護者～私は合併しない方がよいと考えています。私は向陽小学校出身で当時複式学級がありました。掃除を縦割り担当したり、全ての児童の名前を覚えたり、人間関係も良く、複式学級の良いところもたくさんあると考えています。

音江小学校は特色ある学校で、例えばネイパル深川に1週間寝泊まりしながら通学する通学合宿があり、そこで地域に協力いただく中で、お風呂に入らせてもらう「もらい湯」などの素晴らしい伝統があります。

こうした環境で育った子ども達は、挨拶をきちんとすることができますし、自

然豊かな音江で子育てできることは素晴らしいと思います。

○保護者～私は統合して欲しいという考えです。私は音江小学校出身ですが、現在は児童数が減っているため、子どもが中学に上がるときのことや学校行事などについて心配しているし、学童においても将来的にどうなっていくのか心配です。

広里地区では音江小学校に通っている子どもと深川小学校に通っている子どもの両方がいます。現在、上の兄弟が深川小学校に通っている場合にのみ下の子どもが深川小学校へ通うことが認められています。

路線バスについては、通学により維持できている状況だと思うので統合になれば、路線の維持ができなくなるのではないかと考えています。

同じような考えから深川や一已に引っ越しをした人もいたため、このまま人が少なくなっていくように感じています。

常に統廃合が噂されており、保護者の間では心配が続いているので、統廃合となった場合は校舎の利活用や子どもの遊び場についても併せて検討して欲しいと考えています。

子どもにも統合について意見を聞いてみたところ、「私はこのままが良い。他の学校が合併すればよいと思う。」と言っていました。

○学校運営協議会委員

～過去に PTA 役員を経験したことがあります。現在の小学校の配置の根拠となっている平成 29 年度に決定された資料も記憶にあり、その時から子どもの数が減る中で統廃合の噂が出ていたため、私としては「大丈夫ですよ。」と言ってきました。

私は 800 人も児童がいる大きな小学校を卒業していますので、深川小学校も小さいと感じています。さらに小さい音江小学校の授業を見る機会がありますが、そのレベルは年々上がっていると感じていますので、音江小学校については、小さいなりの良い教育を続けて欲しいと思っています。

私が思う音江小学校の良いところですが、卒業式の際にたくさんの在校生が泣いている姿があることや、5 年生達が「次は自分達が一番上になる番だ。」という自覚により顔つきが変わるところが素晴らしいと感じています。

○学校運営協議会委員

～音江地区に住んでいる方については、土日などは他所に出かけるのではなく、地域で生活している人の数が多いと感じていて、その理由は、音江の魅力にあると考えています。

また、以前の音江中央保育園には音江の子ども達がほとんどでしたが、施設が古くても一人ひとりを丁寧に育てることができるという環境に魅力を感じる親が増えており、今では深川や一已から通う子ども達が増えています。

市には、こうした音江の魅力を発信し、企業誘致などの施策に繋げてほしいと思います。

神居古潭の方で学校がなくなったときに、地域のつながりも薄くなったという話を聞いたことがありますので、私は音江小学校がなくならないで欲しいと思っています。

○その他の参加者

～私は音江小学校出身です。少人数の学校の場合、先生たちが児童一人ひとりを丁寧に育てることが出来る点が良いと思っていますが、児童数が多くなれば、その分それが出来なくなると思います。

児童数はどんどん減っているため、いずれは統合していくことになると思いますが、その場合においては、小さい規模の方での協議が大切だと思います。

このほか、小学校は避難場所に指定されているため、建物の老朽化なども考慮しなければならないと考えます。

このようなことから、当面は音江小学校を存続して欲しいと思っています。

○学校運営協議会委員

～先ほどの広里地区において、音江小学校と深川小学校の両方に通学できることについて教えて欲しいです。一般的には川など地理的な状況を踏まえ校区が決定されているものと考えていました。

学校は、地域の文化発信の拠点であるため、無くなってしまえば地域は衰退していくと思います。

小規模校の子ども達は活発でのびのびしています。小規模校には小規模校の良さがあり、大規模校には大規模校の良いところがありますので、最終的には地域の方がどう思われるかが大切だと思います。

○教育委員会

～就学する学校については、深川市立学校通学区域規則に定めており、音江小学校ですと石狩川からこちら側が校区になります。

指定校の変更につきましては、理由によって変更することができます。

この変更要件に自宅と学校との距離が近い方の学校に変更できるとしていた時期がありましたが、市議会から深川橋を低学年が通学するのは危険であり、教育委員会として安全確保が必要との指摘があったことから、児童の安全を考えて見直しを行い、現在は、距離要件削除しているものです。

これにより、広里地区においては、混乱を招くこととなりましたことをお詫びします。

○学校運営協議会委員

～統廃合という話は消えることはないと思いますが、子ども達のことを最優先に考えて欲しいと思います。通学に 30～40 分もかかるのは大変ですので、そうしたことも考えて欲しいと思います。

○教育委員会

～皆さんからのいただきました大変貴重な意見ありがとうございました。今後どのような方向で持っていくのか十分精査して進めていきたいと思っています。

以上をもちまして、本会を終了したいと思います。

以上